

やまぐち

桜の森

2012.4 第9号

通信

山口県立大学広報誌



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

【特集Ⅰ】

理事長インタビュー

この半年の出来事

【特集Ⅱ】

感動・活躍!

おいでませ 山口国体・山口大会

研究室紹介

講義紹介

相談の森

学生紹介

サークル紹介

国際交流

第2期中期計画の概要・新任教職員紹介

当初予算概要

山口県立大学第二期施設整備計画

トピックス

キャンパススケジュール





存在感のある 愛される 大学に



任期満了(2012年3月31日)に伴う理事長選考会議において、現理事長の江里健輔氏の再任が決められました。
任期は2012年4月から2年間で学長を兼務します。理事長(学長)として7年目を迎える江里健輔理事長(学長)に話を伺いました。

Profile

昭和14年1月生まれ。
山口県立医科大学(現・山口大学医学部)卒業。
山口大学医学部教授、山口大学医学部附属病院長、山口県立中央病院(現・山口県立総合医療センター)院長を経て、平成18年4月より現職。
専門分野は外科(心臓血管外科学)

理事長(学長)
江里 健輔

法人化された山口県立大学の初代理事長・学長に就任されてから、今年の3月で6年を経過しますが、振り返られて、どのような感想をお持ちでしょうか。

初めは、法人化されたばかりの大学の状態がよく分からず、暗中模索の状態でした。本当に分かるようになったのは4年を過ぎた頃からではないでしょうか。それまでは従来の大学のやり方を踏襲していました。しかし、変えるべきところは変えなければならないということで、教職員の方々に刺激的な言葉を投げかけもしました。その甲斐あってかどうか分かりませんがGPという文部科学省のプロジェクトに対して本学のような小規模の大学が6年間に8つも採択されたことは今の本学の魅力と言われていることにつながっているのではないのでしょうか。意識改革と外部資金の導入を旗印にしていますが、これについては、なかなか難しいことです。意識改革については十分に至っていないことだろうと思います。

学長は、常々、「地域マインド」を持った学生を世に送り出すと言われておられますが、その思いをお聴かせください。

本学は山口県民の皆様の支援のもとにつくられている大学だと私は思います。だから当然、県民の皆様にいろんなことを還元するというのが大学に課せられた大きな課題の1つだと考えます。例えばその一つが、地域マインドを持った学生を世に送り出すということです。

学生は将来に対するあらゆる可能性と、非常に幅広いアーム(弓)を持っていますから、地域を愛し、地域を理解し、地域のために何か自分が役立ちたいという熱い気持ちを持った学生を輩出したいと思います。ここでいう地域とは山口県だけではなく、幅広い意味での地域を含めています。自分たちが住んでいる地域を中心に考えることができる人材に成長してほしいです。

少子化が進行し、大学を取り巻く環境が変化する中で学長は「地域貢献型大学」を目指されていますが、山口県立大学のあり方についてはどのようにお考えでしょうか。

大学には教職員、学生それぞれの知的財産というものがあります。教員が一生懸命研究してきたものを社会に、山口県民の皆様に還元する。地域マインドをもった学生を社会に送り出す。職員は教員および学生がそういう活動ができる状況を作る。そのようなことが三位一体になって、地域貢献型大学ということがいえると思います。この「地域貢献」というキーワードなしでは、本学の将来はあり得ないというふうにお考えしております。



在学生、卒業生に伝えたいことは何ですか。

たくさん伝えたいことはありますが、一番いいことは職場、あるいは自分の活動分野、活動地域において存在感のある人になってほしいということです。その人がそこにいてもいなくてもそこに何ら影響がない、そういう人になってほしい

くないと思います。

存在感のある人材になるためには、ただぼんやりと毎日、職場に勤めているようではだめです。自分の目的をはっきりと持たなければなりません。目的を持つことによって、それを達成しようと努力をするようになります。努力をするといつかは達成できます。達成できたときの気持ちというのは何事にも変えられない無上の幸せにつながります。その幸せが次の目的につながって進んでいく・・・という回転に発展するのではないのでしょうか。

教職員に伝えたいことは何ですか。

自分の今の環境が他の領域の方々と比べて果たしてどうであるかということを考えてほしいと思います。

自分の今のポジションが、自分にとって、そして他の人と比べて非常に幸せなのか不幸せなのかということをはっきりと考えてほしいということです。それから、自分はある一定の期間本学に在籍しているということで、何年かの期間を預かっているという謙虚な考えで、後輩に自分のなし得たことをすばらしい形で伝えて残しておきたいという気持ちを持ってほしいと思います。

山口県立大学を支えてくださっている、地域の皆様へ一言お願いします。

本学の教職員、学生は、地域貢献型大学ということで一生懸命頑張っておりますので、どうか地域の皆様にはそれを支援してほしい、温かい気持ちで見てほしい、山口県立大学は我々の大学である、という気持ちを持ってアドバイスしてほしいと思います。もちろんそのアドバイスの中には辛辣なご意見があっても一向にかまいません。地域の皆様には是非ともそのような目線をこちらに向けてほしいと思います。

山口県立大学を目指している高校生へ一言お願いします。

本学は学生数1300名程度で、大学としては大きな総合大学ではありません。非常にコンパクトな大学です。そういう意味で学生さんと教職員との密度が非常に濃いです。教員は約120名ですので、だいたい教員1人あたりの学生数が約10人です。教職員が学生の面倒をよく見ることができる、アットホームな環境で4年間、あるいは大学院で勉強ができることは非常にすばらしいと思います。

10年後、20年後の本学はどうあって欲しいと思われませんか。

社会は刻々と変化しておりますので、今の状態が10年後になったらどういう状態になっているか全く想像できません。ただ、人口が減るということは言えるでしょう。その時に本学が生き残るためには、本学を特色のある大学にしておく、ということが必要です。

最近、「機能別分化」ということが言われております。本学が特色を生かし、他の大学に比べて、「ここが違う」というものがある大学に10年後、20年後になってほしいと思います。

それでは、ここから少し学長の「江里健輔」としての部分をお聞かせください。学内外での行事や講演など、毎日パワフルに活動されていらっしゃると思いますが、パワーの源は何ですか。

そのポジションで自分の出来るだけのことをしようというのが私の信条でございます。この辺りでいいのではないかとことはあまり考えません。その領域で最高のものを求めてきておりますので、そのためには何をしたらよいかということで自分が行動するのだらうと思います。中位でいいと思ってトップになれるわけではありませんが、トップになろうと思わないとトップにはなれないというのが私の信条でございます。ナンバー2、ナンバー3ではだめですね。



愛読書は何ですか。

本はたくさん何でも読みますが、司馬遼太郎さん、あるいは夏目漱石さんの書などは、ずっと通して読んでいます。「三四郎」「それから」などをずっと読んでいくと1人の人格がだんだんと変化しているのがよく分かります。非常に教訓的なことがいっぱいあります。

座右の銘を教えてください。

「仏心」あるいは「善魔」です。

善魔とは、例えば、ある人が喜びと思って何かをしても、それはその人にとって非常に迷惑なこともあります。そういうことを遠藤周作は「善魔」と言っています。従って、私は常に相手の気持ちを考えて行動するようにしています。

休日は何をして過ごされていますか。

新聞等々に毎月2つか3つ掲載されているコラムなどを書くのに時間を使います。または2カ月に1回くらいゴルフをします。

コラムはタイトルを決めるのに2週間くらいかかります。タイトルが決まれば、中身の文章は10分ほど書くことができます。毎朝、午前3時半から散歩をしているのでそんな時にタイトルを考えます。散歩は60歳頃から、もう10数年続いています。出張先でない限り、朝3時半から1時間くらい毎日歩きます。この時間帯は、天気も乱れていることが少なく、静かで、まるで地球が止まったような感じなのです。時々、バトカーが私を心配して、ゆっくりついてくることもありますが・・・散歩は今日は雨だとか雪だとか言って理由をつけて1日でも休んではだめですね。何事においても理由をつけて1回でもやめると続けることができないと思います。

最後に、今後の抱負をお聞かせください。

10年後、20年後、本学が存在感のある大学であって、山口県民の皆様に愛される大学になってほしいです。山口県から本学がなくなっても山口県民の皆様はなんら不自由を感じない・・・という大学では存在する意味はありません。

そのためには教職員に、本学は県民の皆様の支援によってできている大学なので成果を還元することが求められているという意識をしっかりと持ってほしいと思います。



▶▶▶▶ YPU New Wave

この半年の出来事

昨年10月から今年3月までの主な出来事について、報道発表（ニュースリリース）したものを中心に紹介します。

10/1～11、10/22～24

○第66回国民体育大会「おいでませ!山口国体」、
第11回全国障害者スポーツ大会「おいでませ!山口大会」
の運営に県立大生が多数参加

山口県の一大会に、本学も様々な形で関わり、多くの学生が活躍しました。両大会を通じた人々との出会いは、本学の学生にとっても実りの多いものとなりました。



国体での学生ボランティア活動



山口大会でのサポートボランティア



仮装大賞（観客参加型投票コンテスト）

11/5～6

○華月祭

例年2日間に渡って行われる学園祭ですが、今回は雨天のため、1日のみの開催となりました。学生による実行委員会が県立大学70周年記念スペシャルライブとして企画したK-POPグループ「SM☆SH（スマッシュ）」のライブを行うなど、大いに盛り上がりました。

11/10

○第6回モノづくり連携大賞・特別賞 受賞

山口県立大学や山口大学など8つの機関による連携事業である「ニーズ指向型産学公連携による大学知的ネットワークを活用した一次産業活性化支援プロジェクト」が、日刊工業新聞社主催の第6回モノづくり連携大賞・特別賞を受賞しました。

事業は、水産業の活性化を通じて「地元を元気にしたい!」という、山口県宇部市の漁業従事者の思いを産学公のネットワークを活用して具体化したものであり、イカの加工品“おひとつイカが?”（宇部元気ブランド認証商品）の開発やその販路開拓等を支援しました。本事業の中で本学が担当したパッケージデザインは、「宇部元気ブランド」の認証にあたり重要な役割を果たし、商品化に大きく寄与しました。



本学 国際文化学部文化創造学科
小橋圭介講師がデザインしたパッケージ



懇談会の一コマ

11/10

○郷土文学資料センター設立25周年記念懇談会開催

郷土文学資料センター設立25周年を記念して、本学において、懇談会を開催しました。県内で文芸創作や文学者の顕彰に関わっておられる方々を含む13名の参加があり、センターの今後の活動に向けて、貴重なご意見をいただくことができました。



講演を行う金田一氏

11/21

○山口県立大学創立70周年記念事業
客員教授特別講義 金田一秀穂 氏「言葉と人間」

本学の学生・教職員、一般県民の方を対象に、海外での日本語教育経験も豊富な杏林大学外国語学部教授の金田一秀穂氏に、『言葉と人間』をテーマとする講義をしていただきました。

11/30 ○第1回 大学院合同研究会開催

国際文化学研究科と健康福祉学研究科で初めて合同で研究会を開催しました。テーマは「しあわせ」。医学、栄養学、社会福祉学、インド哲学仏教学、中国文学、経済学など2研究科の専門領域を生かした様々な側面から「しあわせ」について発表がありました。本研究会には地域の方も参加され、「しあわせ」について、多角的に考え、ともに探求することで、より深い思索を深めることができ、大盛況に終わりました。



2研究科それぞれの発表の1コマ
国際文化学研究科側「しあわせを
経済で考える」



健康福祉学研究科側「しあわせな老い」



講演の様子

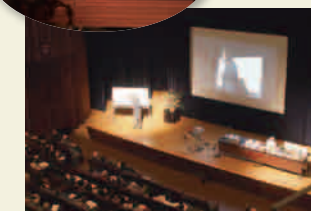
12/15 ○姉妹大学交流・公開レクチャー開催

本学と学術交流協定を締結しているセンター大学（アメリカ）からブヴィエ・ふみえ教授を講師として招き、山口市秋穂地域交流センターを会場に、市民の方々を対象とした公開レクチャーを開催しました。「[ほぼ半世紀にわたるアメリカ生活を振り返って]」の演題で語られた興味深い話に会場中が聴き入りました。

12/17

○戦略的大学連携支援事業成果報告会・秋山 仁 氏 講演会「生きた学びを」

山口県立大学、山口東京理科大学、山口学芸大学が平成21年度に文部科学省から採択を受けた、「戦略的大学連携支援事業」の成果報告会を本学で開催しました。基調講演には「生きた学びを～三人よれば文殊の知恵、発想の転換を～」と題して、テレビやラジオでも活躍中の東海大学教育開発研究所長の秋山仁氏をお招きしました。数学者である秋山氏は、講演中に様々な教具を使用され、420名の来場者の注目を集めました。サプライズゲストとして女優の由美かおるさんが登場され、大変盛況な報告会となりました。



講演でさまざまな教具を使用する秋山氏



記者会見で意気込みを述べる江里学長

12/27 ○次期理事長に江里健輔 氏（現理事長）を選考

任期満了（2012年3月31日）に伴う理事長選考会議において、現理事長の江里健輔 氏の再任が決められました。任期は2014年3月までの2年間で学長を兼務します。会見で理事長は、「地域貢献型大学としてニーズに応える大学でありたい」と意気込みを語りました。

1/21 ○別科助産専攻入学試験実施

平成24年4月に新設される別科助産専攻の入学試験を実施しました。別科開設は、「保健師助産師看護師法」等の改正による教育内容の充実等に対応し、看護師免許取得者等を対象に、広く学生を募集することとしたものです。



3/15

○平成23年度 下半期全学FDにて
公立大学協会会長 大阪府立大学
理事長・学長 奥野武俊 氏が講演

大学の教職員の能力向上を図るFD（Faculty Development）研修会を開催しました。基調講演として、公立大学協会会長 大阪府立大学理事長・学長 奥野武俊 氏をお招きし、「公立大学の使命—大阪府立大学の大学改革を例にして—」と題してご講演いただきました。



奥野武俊 氏の基調講演



卒業証書等を受け取る卒業生

3/21

○平成23年度学位記授与式

学部生334人、大学院生26人が慣れ親しんだ学び舎を巣立ち、新たなステージへの一歩を踏み出しました。

3/22 ○防府市との連携・協力に関する協定を締結

本学と防府市が相互に連携、協力関係を構築し、地域の総合的な活性化に資するため、連携協力に関する包括協定を締結しました。地方自治体との包括協定締結は、平成20年の山口市に続いて2件目となります。



協定締結に向けた防府市との懇談会



トラックで演技しているのは県大生

山口国体

2011年10月、第66回国民体育大会「おいでませ!山口国体」、第11回全国障害者スポーツ大会「おいでませ!山口大会」が開催されました。山口県の一大会である両大会に、本学も様々な形で関わりました。その内容を紹介します。

開・閉会式典 総合プロデューサー

大会のオープニングを飾る総合開会式や大会を締めくくる総合閉会式は、開催県を趣向を凝らした演出で県の魅力をアピールします。その式典総合プロデューサーを本学の田村洋教授が務めました。



国際文化学部 文化創造学科 教授 田村 洋

平成17年に式典専門委員長に就任以来、「山口県の魅力いっぱいの式典にしたい、来県者におもてなしの心を届け「また来たい」との良い印象を持って郷土に帰ってもらいたい」、そうした大会にしようと心に誓い、会議、打合せ、練習会を重ねてきました。出演者、運営スタッフ他、一万人近い人々の参加、秒単位の進行スケジュール、緊張の連続でした。

そうした中、東日本大震災が発生しました。復興に向けた元気を山口県から発信したいと、企画構成を変更しながら暑い真夏の練習会に突入、そして九月、練習会最後の日を迎えました。真っ黒に日焼けした大勢の出演者の前で最後のお礼の言葉を述べました。不覚にも涙が溢れ言葉になりませんでした。

本番では、県大のダンス部、手話サークル、学生ボランティアなど大勢の学生が参加、大会に華をそえました。大会スローガン「君の一生けんめいに会いたい」とおり、出演者も関係者も山口県民も皆一生懸命でした。私も成功と言うゴールに向かい7年間の思い出と共に駆け抜けました。

Topics

田村教授は、山口県の住民の福祉の増進に関し、顕著な功績があった者又は団体に対し、山口県が選奨する「山口県選奨」を受賞されました!

式典前演技指導 ダンス部 colorful



オレンジ色のコスチュームは式典前演技で観客をリードする本学ダンス部メンバー

本学のメンバーは、会場が一体となって打ち鳴らす「竹楽器」について、会場内のお客様に対して実演レクチャーを行うという大役も果たしました。本番は、見事な竹楽器のリズムで会場が一つになり、多くの拍手で包まれました。



開会式に先立って行われた式典前演技では、本学ダンス部を中心とする学生たち41名が、県内ダンススタジオ、小・中学生、高校生など1500人を超える県民とともに出演しました。

本学からの国体出場選手

山岳競技

ボルダリング競技5位、リード競技3位入賞!



スポーツライミ部
看護栄養学部栄養学科
2年 重永 織江さん(左)
国際文化学部国際文化学科
1年 大田 理絵さん(右)
※学年は当時

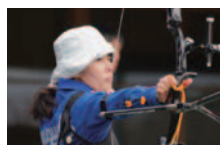


2人とも持てる力を存分に発揮し、見事入賞。大田さんは、リード競技の、個人順位で見事1位にも輝きました。

岡村さんを含む山口県チームは惜しくも準々決勝進出はなりませんでしたが、皆、ベストに近い得点を積み重ね、大健闘でした。

アーチェリー競技

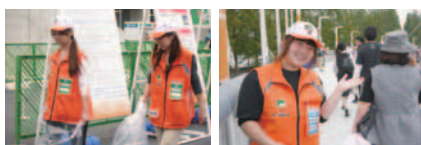
山口県成年女子
決勝ラウンド進出の大健闘!!



アーチェリー部
大学院健康福祉学研究科
1年 岡村 梢さん



様々なボランティア活動



総合閉会式では、本学の学生33名が一般県民のボランティアの皆さんと一緒に、閉会式を円滑に進行出来るよう、また選手の皆さんや来場される方のため、様々なボランティア活動を行いました。



学生限定広報ボランティア ぶちやっちょる隊

国体史上初の学生限定広報ボランティア「ぶちやっちょる隊」所属の学生が、マスコットのちょると一緒に活動するなどして活躍しました。

全国障害者スポーツ大会「おいでませ!山口大会」に 選手団サポートボランティアとして参加

第11回全国障害者スポーツ大会「おいでませ!山口大会」では、本学の1年生と編入生335名が10月20日～10月25日までの6日間、選手団サポートボランティアとして活躍しました。参加選手が快適な環境で競技できるよう、おもてなしの心を持って、送迎や案内、介助、応援などのサポートを行いました。

6日間活動する中で、たくさんの出会いがあり、共に過ごした選手と別れる際は涙を流す姿も見られ、学生にとってかけがえのない貴重な時間となりました。



手作りの応援旗を持って、到着した各県の選手団を迎えました。



別れの際は熱いものがこみ上げてきました。小雨が降る中でも、陸上競技場移動をサポートしました。

基礎セミナー (H23.4.15～H23.11.18)

1年生は4月から、新入生の必修科目である「基礎セミナー」の授業で「共生社会」というテーマのもと、共生の理念やボランティアとして活動するための学習を行い、学んだことを実践するフィールドワークとして山口大会に選手団サポートボランティアとして参加をしました。



シドニーパラリンピック陸上日本代表選手の方の講演



初めて手話を体験



ボランティアに参加して実感した共生社会の大切さ

全国障害者スポーツ大会に係る様々な活躍

点字メニュー作成 点字サークルぶちぼあん

大会の開催にあたり、市内のバリアフリー化を促進するために、街のレストランのメニューやホテルの利用案内などの「点字化」作業ならびに、弱視者のための「拡大文字」の作業に取り組みました。



バリアフリーマップ作成

社会福祉学部加登田研究室では、山口大会を訪れた選手団に配付するため、地域調査を元に市内のバリアフリー地図を5千枚作成しました。地図には商店街、宿泊施設などにおいて、車いす専用駐車場、点字メニュー、多目的トイレ、スロープの有無、手話や筆談ができるスタッフがいるか等の情報が示されており、市内4か所の観光案内所で市民向けに無料配布も行われました。



作成したバリアフリーマップ

マップ作成のためのバリアフリー調査



東日本大震災支援 ぶちボラYP勇氣

災害ボランティア実行委員会ぶちボラYP勇氣は、山口大会で、災害ボランティアを啓発するためのブースを出展。被災地の仮設住宅で好評だったハンドトリートメントを来場者や各県の選手に提供し、得られた募金は、全額、災害ボランティア活動資金や岩手県の学生ボランティアセンターの災害ボランティア資金として寄付しました。





Welcome to LAB 研究室紹介

国際文化学部 文化創造学科
色彩学研究室
講師 小橋 圭介

「リングは何色ですか?」と聞かれたら、多くの人は「赤色」と答えるでしょう。では、多くの人が思い浮かべたその「赤色」は、みんな同じ色でしょうか。ピンクっぽい赤かもしれませんし、少し青みがかったものかもしれません。私たちは便宜的に色を「赤」や「青」と呼んではいませんが、細かい色の違いを共有する手段を持ちあわせてはいないのです。もちろん、専門的な話をすると色は「色相・明度・彩度」と3つの属性に分けられ、それぞれを数値化することで共有はできます。しかし、一般的には馴染みがないですし、共有するためとはいえ色を数値化するの

は味気ないものです。大切なのは、色が繊細で移りやすいものだとして認識することにあると思います。

色彩学研究室では、色彩を通して自分のイメージをどのように表現できるのか、創作活動を通して学んでいきます。当たり前のように身の回りにある色彩と改めて向き合い、単なる物を彩る飾りとしてではない

「イメージを伝える手段」として色彩について考えていきます。色は常に私達に語りかけています。服や携帯電話や小物などを決める時、無意識のうちに色に左右されていないでしょうか。色彩は見る人の心



写真奥 一番左が小橋講師

理に訴えるため、決して疎かに扱えないとても重要な要素なのです。

今後も制作を通して知識・技術を習得していく中で、色彩をコミュニケーションツールの1つとして捉え、色彩表現の可能性を研究していくと共に、より豊かな生活の創造を目指していこうと考えています。

看護栄養学部 看護学科
基礎看護学・学校保健研究室
准教授 丹 佳子

研究領域は「基礎看護学」「学校保健」「養護教諭養成教育」ですが、今、行っている研究は、「小児救急パンフレットの効果に関する研究」と「養護教諭のフィジカルアセスメント能力向上のための教育教材開発」です。



写真中央が丹准教授

前者では、子どもが病気の時、「受診基準や判断」に関する不安を抱えている保護者が多いことから、数年前、保護者の判断を助ける「お母さん・お父さんはいちばん身近なお医者さん」というパンフレットを作成しました。その改訂版を、「すこやか育ち隊(子どもの健康と地域医療を考える会)」の井出崎さんたちと共に検討しているところです。後者の方は、保健室で手当てする頻度が高い「外傷」の写真画像を収集し、その画像を用いて外傷の重症度・緊急度の判断力を養う養護教諭向け教育プログラム作成に取り組んでいます。

私自身の研究はこういった感じですが、学生

の卒論ゼミでは、学生自身の興味に焦点をあてて行っています。研究は研究者の課題に対する興味関心の強さによって支えられます。初めて研究を行う学生達が、少しでも研究のおもしろさを体感できるよう、テーマ設定に特に時間をかけ、学生の日頃の疑問や興味関心が反映できるように支援しています。最近の卒論のテーマをご紹介しますと、「養護教諭に寄せられる保護者からの苦情と対応の実態ー保護者とのより良い関係づくりのために必要なことー」「叱られ体験から学ぶ効果的なしかり方とやる気との関連性ー看護実習及び演習場面においてー」「授業中の眠気への効果的な対処法と予防法」などです。学生らしい発想のテーマ設定ができ、学生自身が楽しんで行っているのが印象的です。

Watch Lecture 講義紹介 実践英語Ⅱ

国際文化学部 国際文化学科
教授 ウィルソン・エイミー

「実践英語Ⅱ」は、2年次後期に開講されている科目で、話す能力の向上を目指しています。まずは将来の夢や働き方、学びやレジャーの理想的なあり方などについて身近なトピックを1分間考え、1分間話します。瞬時に自分の意見や主張を英語で発するのための訓練です。次は、欧米大学に留学した場合に遭遇する場面に関する短文を読み、二人の会話を聞いて、会話に出てきた人物の次の行動を予測します。状況理解と解説能力、判断力と発話力の練習です。最後に、欧米大学の講義の一部を聞いて実践的な対応をする練習です。

これらの練習はかなり難しく、決まった時間で考えをまとめ、他人に伝えることに苦勞する学生が多くいます。それは、日本語でも自分の考えを主張する機会が少ないからかもしれません。

授業外ではコンピュータを利用したeラーニングを用いて、自宅でリスニングとスピーキングの練習をしています。欧米のニュースや社会的な話題について触れることができるので、英語を通して欧米文化への理解力を身につけることができます。

ネイティブ・スピーカーの私の役割は、「teacher」(教員)ではなく、「facilitator」(背中を押す人)です。あくまでも実践能力を身につける主体は学生たち。学生がもっている能力を引き出しながら、欧米文化や社会の背景について説明し、よりスムーズな表現の仕方ができるよう支援するのが役目だと思っています。

ます。

毎週の授業で、自分が日本語を勉強し始めた頃を思い出します。当時は、独り言のように日本語を発して、新しい言葉を自分のものにしてきました。学生たちにも、英語で寝言を言うくらいになってほしいと願っています。



Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。

Q 会社の定期健康診断で、メタボ予備群といわれました。これまでも健康のためにウォーキングを始めようとしたことはあるのですが、長続きしません。何か、いい方法はありませんか? [40代、男性]

A メタボリックシンドロームは、内臓脂肪が蓄積することが原因となって、糖尿病、脂質異常症、高血圧を発症する可能性が高くなっている状態をいいます。肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧は「死の四重奏」といわれ、これらが積み重なって起こると、心筋梗塞や脳卒中を引き起こす危険が高くなります。食事として摂取するエネルギー量に対して、消費するエネルギー量が少なくなった時に、余分なエネルギーが内臓脂肪に蓄積されます。メタボリックシンドロームの人は年々増加し、40歳以上の男性では、予備群と合わせて50%以上になっています。

メタボリックシンドロームを予防するためには、エネルギーバランスを適正に調整することが大切です。1か月で内臓脂肪を1kg減らすためには、1日に200~300kcal程度減らす必要があります。これはご飯お茶碗1杯に相当します。これをウォーキングで消費しようとなると60~100分かかります。だから、ウォーキングだけに頼るのではなく、食生活と運動を上手に組み合わせることが成功の秘訣になります。ウォーキングの時間を取るのが難しい人は、1日に歩く歩数を現状から2000歩増やすことを目標にするといいかもしれません。これで消費エネルギーは約60kcal増加します。あとは、食事でおにぎり1個分くらいを減らせば、200kcal削減を達成できます。自分の1日の行動をよく振り返って、これならできると納得できることを目標にし、決めたことが実行できたかどうか毎日記録することで、楽しみながらメタボを予防しましょう。



副学長
長坂 祐二
(専門領域:臨床病態学)



Student's Interview 学生紹介

いま、キミは輝いて

卒業を控え、想うこと

国際文化学部 文化創造学科
2012年3月卒業生
原 麗奈さん



今、私は四年生。卒業論文発表会も終え、後は卒業を待つばかりの身となっています。山口県立大学での生活を思い返して見れば、本当に様々なことがありました。入学以前には大学の小ささに驚き、入学してからは宿泊オリエンテーションを経て初めて体験するレポートに追われ、慣れた頃には百日咳に罹り、夏には豪雨災害に二年連続で見舞われ、電車は停まり土砂崩れは起き、冬になれば盆地の恐ろしさを知り、三年生の時には地域実習に悪戦苦闘し、ゼミに入り、就職活動に追われ、東日本大震災があり、そして卒業論文と制作を行い、展示も経験しました。私はサークル等には所属していなかったのですが、これだけ濃い四年間は後にも先にもなかなかないのではないのでしょうか。

それらの体験の中で常に隣にあったのは、友人や先生方の存在でした。みなさんも御存じの通り、山口県立大学の規模は大きくありません。私が所属する文化創造学科の日本文化系に限って言えば、ひと学年で40人程度です。しかし、小さいコミュニティであるが故に、学生同士、教師と学生の距離がとても近い、アットホームな大学なのです。先生方は私のできることを理解して多くの助言して下さいました。

し、学生同士も、時には切磋琢磨し、時には傷をなめ合う、そんな学生生活でした。充実していたし、どの部分を切り取っても「楽しかった」と自信をもって言えます。私が四年間で出会った先生方、友人たちは、かけがえのない存在です。私は四年間、この大学の学生で本当に良かったです。みなさん、本当にありがとう！



日本史研究室にて(写真真ん中が原さん)

その人らしく生きることを支える

看護栄養学部
看護学科3年

児玉 優衣さん



「誰かの支えになりたい！」
初めはそんな漠然とした想いを胸に、山口県立大学の看護学科に入学しました。入学して2年が過ぎた今、人の支えになるとはどういうことか、看護を通して私には何が出来るのかということが見え始めています。
はじめの頃は、看護の知識や技術があれば、ケアを提供できると思っていました。しかし実習で臨床に出てみると、患者

さんに対して様々な技術やケアを提供するだけが看護ではなく、それらを基盤として、相手との関わりを深めていくなかで生まれる「心のふれあい」が、その人を支えるきっかけとなるのが分かり、そしてそのきっかけから真のケアへつながるのではないかと、さらに人を癒すために用いるひとつの手段として看護があるのではないかと、このように考えが変わりました。

看護は患者さんに対して身体的な面のみならず、心理的・社会的な面を含めたトータルアプローチが出来るのがとても魅力的であり、相手に寄り添い人生を共に歩み、支えたいという私の目標をより強く感じさせてくれます。また、あらゆる健康レベル・年齢の人が、その人らしく生きることを通して人生を豊かに送れるように、生きる力を維持する・取り戻すための手助けができる看護師が私の理想です。そのために相手が大切にしていることを尊重しながら、精一杯生きようとすると人の支えになれるよう、これからも知識・技術を学び、根拠に基づいた看護の実践を習得し、「私だからこそできる看護」を探し続けて、カタチにしていきたいと思っています。



血圧測定の実習をする児玉さん(写真左)



勝だったので、喜びはひとしおでした。また、地域のお祭りにも野球部として参加させていただき、地域の方と一緒に神輿をかついだこともあります。

これからも野球を楽しみながら、仲間と共に頑張っていきたいと思っています。

Exchange International

国際交流

●●●スペイン旅日記●●●

2011年9月、本学の江里学長を団長とする訪問団が、スペイン・ナバラ州立大学に赴き、同大学との間において学術協議を行いました。その時の様子を、訪問団として同行した、本学職員 岡田 武士さんの旅日記で紹介します。



サグラダ・ファミリア

学生支援部
教務入試グループ 主任
岡田 武士

目的地スペインに向け、まずは、福岡から中部国際空港へ。あいにくの台風の影響により、3時間遅れで飛行機に乗り込み中部国際空港を出発し、ドイツ・フランクフルト経由でスペイン・バルセロナへ。



牛追い祭りの会場 パンプローナの街並み。この街でアーネスト・ヘミングウェイが「日はまた昇る」を執筆した

バルセロナから今回の訪問の目的地、ナバラ・パンプローナへ。

パンプローナは、古い建物を活かし、城壁と古い町並みが残る「牛追い祭り」で有名な街。ヨーロッパの雰囲気を感じました。

さて、ナバラ州立大学はというと、近代的かつ機能的に設計され、メリハリあるスペイン流の色使いに彩られたアーティスティックな施設の数々。ワイングラスが置かれた学生食堂。素晴らしい一言に尽きる図書館。スペイン国内でトップクラスの評価を受けているのもうなずける施設・事業・教育内容、全てが充実した大学。こんな環境で学生生活を送る、本学から留学している学生たちがうらやましい。

両大学長を含めた学術協議では、社会福祉や看護の領域でさらにしっかり提携したいという互いの意向を確認できました。今後は教育研究を含めたこれまでの学生交流に加えて教員交流へと発展することを期待しています。両大学の交流は、次のステージに深化します。



美しいキャンパス敷地内



知識の源 開放的なナバラ州立大学図書館

●●●短期語学・文化研修体験記●●● ～カナダ・ビショップス大学～

留学の第一歩として、韓国・慶南大学校、中国・曲阜師範大学、カナダ・ビショップス大学、フィリピン・国立フィリピン大学のいずれかで春休み・夏休みを利用した約1ヶ月間の語学・文化研修を実施しています。



国際文化学部
国際文化学科3年
富田 彩紀さん

カナダ短期留学は私を大きく成長させてくれました。カナダの大自然を五感で感じながら大好きな英語を学べ、毎日が刺激的で心の底から楽しむことができました。また、ホストファミリーをはじめとするカナダで出会った人達は日本から来た私



大学での休憩時間の一コマ(本人撮影)

たちを快く受け入れて下さり、私にとってかけがえのない存在となりました。特に、私にとってホストファミリーとの出会いは特別なものになりました。カナダに来て少し経った時、私は風邪をひいてしまいました。日本とは違う環境であったこともあり、私は不安でいっぱいでした。しかし、そんな私の変化に気づいたホストファミリーは私を心配して、気にかけてくれたのです。これは普通のことかもしれませんが、私にとっては嬉しくてたまらない出来事でした。また、ホストマザーが風邪が早く治るように作ってくれたはちみつ入りのホットドリンクは体だけではなく、心にもしみわたる優しい温かさがありました。その時、私は涙が出そうなくらい感動し、家族の一員として接してもらっているのだと思いました。しかし、もっともっとお礼の言葉を伝えなかったのですが、Thank youという言葉しか出でこなくて、悔しい思いをした瞬間でもありました。次にホストファミリーに会うときまでにはこの時の思いも伝えられるように成長していきたいです。



ホストファミリーと



現地での友人と(一番左が富田さん)

Circle Report

軟式野球部BlueHages

社会福祉学部
社会福祉学科3年
BlueHages部長

阿座上 宏樹さん



Enjoy Baseball!!

私たち軟式野球部BlueHagesは、週2回の練習を行い、定期的には大会にも参加しています。また、年に2回合宿を行っています。この合宿は練習をするだけで

サークル紹介

なく、みんなでレクリエーションなどをして、親睦を深めるという意味でも行っています。

練習では、まず一番に、野球を楽しむことをモットーに練習に取り組んでいます。選手の人数は少ないですが、その分一人ひとりが工夫してチーム一丸となって頑張っています。

その甲斐あって、昨年度は山口県予選で優勝し、中国大会への出場を果たすことができました。みんなでつかみ取った優



第2期中期計画の概要

本学は、平成18年度に法人化し、平成23年度までの6年間を計画期間とする第1期中期計画に基づき大学運営を行ってきました。第1期は、法人化した最初の期間として、主に大学運営の基礎・基盤づくりを進めてきたところですが、第2期においては、次のステップとして、教育研究の個性・特色や地域貢献のかたちの一層の明確化を図るべく、「未来への橋渡し」をキーワードに、「地域マインド豊かな人材の育成」と「地域活性化への挑戦」を柱としてさらなる改革を推進します。

このたび策定した第2期中期計画（計画期間：平成24～29年度までの6年間）の概要についてご紹介します。

地域マインド豊かな人材の育成

「地域マインド豊かな人材の育成」として、全学共通教育では、地域社会、地球社会の一員としての資質・能力の向上を図るため、全ての学生が地域活動や外国人との交流活動を体験できるようにすることを目指します。

学部専門教育では、実践力を培う教育の充実強化を図り、学生の海外実地体験や学外発表体験を促進する取組、保健医療福祉の実習受入機関から高い評価を得るための取組などを展開します。また、保健医療福祉職の国家試験合格率については、第1期に引き続き高い数値目標を設定します。

さらに、学生が「来て良かったと思える」大学となることを目指して、教育と学生支援の一体化を進めます。また、就職決定率については、第1期に引き続き100%を目標に掲げ、学生の職業生活への移行を支援します。

存在感ある「地域貢献型大学」として、県民の皆様方や地域社会の期待に応える成果を
着実に上げることができるよう、第2期中期計画の確実な達成を目指します。

平成24年度の新規採用教職員です。

教員



国際文化学部文化創造学科
講師
くら た けん じ
倉田 研治
専門領域：Web デザイン



社会福祉学部社会福祉学科
准教授
みやざき え
宮崎 まさ江
専門領域：精神保健福祉



看護栄養学部看護学科
講師
いえい の ゆう こ
家入 裕子
専門領域：基礎看護学



看護栄養学部看護学科
講師
しら いし の よし こ
白石 佳子
専門領域：母性看護学・助産学



看護栄養学部看護学科
講師
よし かね の よし こ
吉兼 伸子
専門領域：成人看護学

職員



看護栄養学部看護学科
助教
た な か かず こ
田中 和子
専門領域：母性看護学・助産学



看護栄養学部看護学科
特任教員(教授)
あ べ ち か
阿部 千代
専門領域：母性看護学・助産学



看護栄養学部栄養学科
助手
す み か わ と も こ
澄川 朋子
専門領域：給食経営管理論



共通教育機構
助教
よし お か かず し
吉岡 一志
専門領域：教職に関する科目群及び高等教育支援



学生支援部生活支援グループ
主任
さ え き と も こ
佐伯 朋子

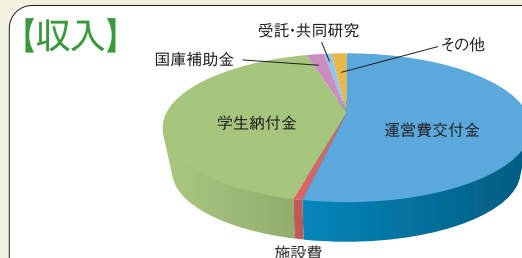
平成24年度の予算

【予算規模】

(千円 %)

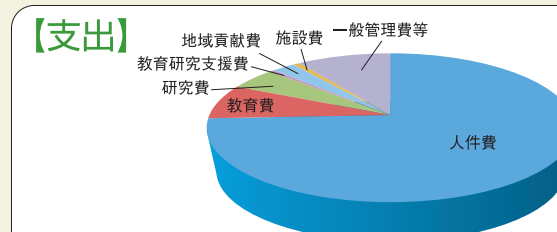
区 分	平成24年度 A	平成23年度 B	増減額 C = A - B	増減率 D = C / B
予算額	1,928,895	2,034,425	△105,530	△5.2

【収入】



- ◆運営費交付金と学生納付金の合計で収入全体の95.0%を占めています。
- ◆運営費交付金は、第2期中期計画期間中に総額(62億円)が交付される予定です。

【支出】



- ◆人件費は14億31百万円であり、支出予算総額の74.2%を占めています。
- ◆残り25.8%を占める事業費(教育研究に係る経費など)は4億97百万円となっています。

【主な取組】

教育研究

大学改革推進事業(GP)の成果の継承

平成23年度までに文部科学省の補助事業期間が終了した5件のGPについて、その成果を生かし、大学単独事業として引き続き実施します。

- ・やまぐち多世代交流・地域共生授業の展開(H19～21)
- ・持続可能な社会に繋がる人的財産の育成(H19～21)
- ・重層的な学生支援教育による福祉人材養成(H19～21)
- ・総合的人間関係力を涵養する学生支援(H19～22)
- ・個性的小規模大学連携による地域活性型e-quality 仮想的大学の創生(H21～23)

国際体験プログラム「地域実習」

国内外の各地域における実習プログラムへの参加により、異文化交流能力やグローバル社会における行動力を育成します。

別科助産専攻の開設

平成24年度に別科助産専攻(修業年限1年)を開設し、県内の助産師養成機関としての役割を果たしていきます。

学生支援

就職活動支援

キャリアサポートセンター所長を民間登用し企業との連携を図るほか、専門分野別キャリアカウンセラーの配置、1・2年生向けワークショップの開催など、就職活動支援体制のより一層の強化を図ります。

入学企画対策

県内高等学校との連携やオープンキャンパス等の推進によって、本学の魅力を発信し、本学で学ぶのにふさわしい意欲・適正・能力を持った学生を迎え入れます。

地域貢献

オープンカレッジ

大学の授業を公開する「公開授業」、出前でお届けする「公開講座」、専門的なニーズにお応えする「やまぐち桜の森カレッジ」「サテライトカレッジ」、現職者のスキルアップのための「キャリアアップ研修」など、さまざまな講座を開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

中山間地域元気創出若者活動支援事業

中山間地域における多様な課題や地域ニーズに対応するため、大学生等の若者による中山間地域を応援する自発的な取組を支援します。

看護教員養成講習会

県内における質の高い看護職員を養成するため、看護師等養成所の教員となるために受講が必要な講習会を本学で実施します。

特定課題

第二期施設整備計画対応

県の「山口県立大学第二期施設整備計画」が着実に推進されるよう、本学として必要な調査検討を進め、平成24年度に行われる基本設計に対応します。

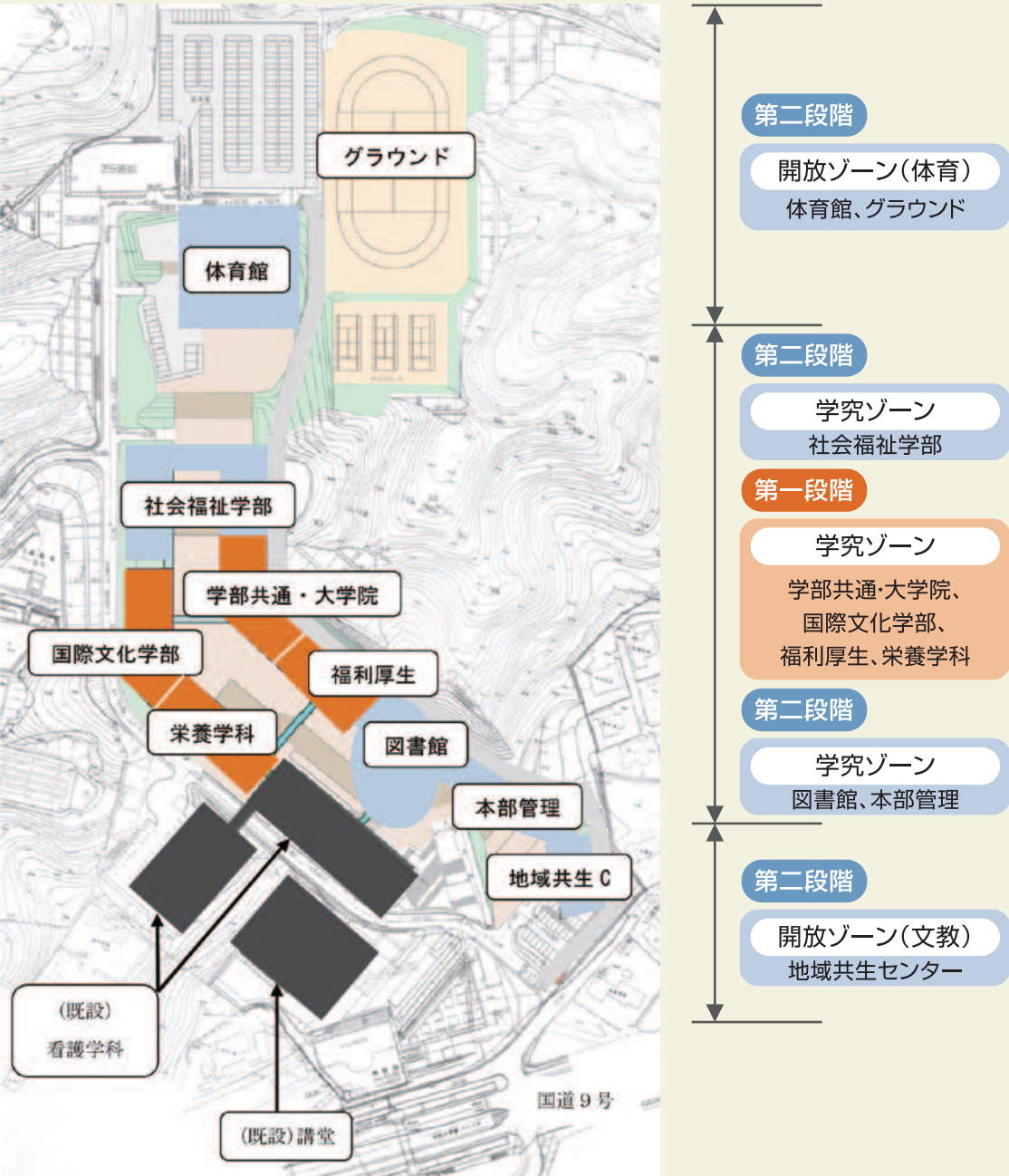


このたび山口県において、本学のキャンパス移転に係る整備計画が策定されました。(平成24年3月)
本学が「地域貢献型大学」として更に発展していく上で不可欠な基盤となる施設整備が着手されることとなり、平成24年度には全体の基本設計が行われます。



施設配置(イメージ)

大学としての一体感の醸成を図るため、国道9号北側用地に集約整備されます。



事業スケジュール

安心・安全や大学の機能確保の観点から設定された優先度に従って、順次整備が進められます。

区分	第二期中期目標期間 (H24~29)	第三期中期目標期間 (H30~35)
第一段階	基本設計	
第二段階		

注) 今後の社会経済情勢の変化等により、変更することがあります。

Topics

■国際文化学部国際文化学科 安溪遊地(あんけい・ゆうじ)教授が、 第32回沖縄タイムス出版文化賞(正賞)を受賞

国際文化学部国際文化学科 安溪遊地 教授が編者として携わった著作「奄美沖縄環境史資料集成」(南方新社出版 安溪遊地・当山昌直 編)が、2012年1月、第32回沖縄タイムス出版文化賞(正賞)を受賞しました。

本賞は、沖縄県における出版文化の向上と出版活動の振興を図るため、沖縄に関わる一般刊行物の中から優れた図書を選定し表彰するものです。

著書には、太平洋戦争後に米軍が撮影した沖縄・奄美の各集落の航空写真を巻頭として、琉球弧の現在に至るまでの自然資源利用の歴史が14人の執筆者により842ページにわたって詳述されています。



Campus Schedule

- 4 APR. 入学式、新入生宿泊オリエンテーション、前期授業開始
- 5 MAY 開学記念日
- 6 JUN. 水無月祭、グローバル学生交流
- 7 JUL. オープンキャンパス、前期末試験
- 8 AUG. 夏季休業、海外語学・文化研修(9月も)
- 9 SEP. 秋季卒業式、3年次編入学試験

本学への寄付

- (株)カネカ
- (株)Owl&Owls
- ほか2件

計4件

合計1,040,000円

ありがとうございました。



編集後記

平成24年3月春分の日 木村 泰則(経営企画部長)

昨年の今頃は、東日本大震災により日本は甚大な被害に見舞われました。この1年間、本学も学生が様々な形で震災支援のボランティア活動を行いました。震災から1年を経た今、その活動は、被災地への直接的支援のみではなく、大学生や地域の方々の防災意識を高め、いざというときの防災行動に結びつけるような啓発活動に発展してきています。学生が本学の教育活動の中で培った、地域を愛し、理解し、地域のために何か自分が役立ちたいという熱い気持ち=「地域マインド」によって成長していく姿を目の当たりにし、頼もしく思えました。

このような活動を通して、学生が自らの将来を拓くヒントを得、それぞれの未来で存在感を示し、活躍して欲しいと思います。

皆様からの広報誌へのご意見、ご感想をお待ちしております。



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>
※Web動画配信も行っています。

コープ山口いずみ店にて、栄養学科のYPU SWEETS PROJECTのメンバーがYPUクッキーとケーキの試食販売をさせていただきました。このお菓子は、学生や教員が山口県の特産品を使った開発に取り組み、洋菓子店の協力を得て完成させたものです。

学生が試食を勧めると、たくさんのお客様が足をとめてくださいました。

